

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-38628

(43)公開日 平成7年(1995)2月7日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

H 04 M  
11/00

識別記号 庁内整理番号

R - 7406-5K  
3 0 1 7406-5K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全7頁)

(21)出願番号 特願平5-176767

(22)出願日 平成5年(1993)7月16日

(71)出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

(72)発明者 小見山 浩一

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

(72)発明者 秦 昌弘

神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

富士通株式会社内

(74)代理人 弁理士 井島 藤治 (外1名)

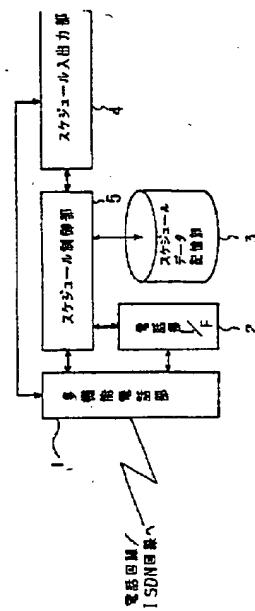
(54)【発明の名称】スケジュール機能付き電話機

(57)【要約】

【目的】本発明はスケジュール機能付き電話機に関し、各個人のスケジュール調整を容易化することができるスケジュール機能付き電話機を提供することを目的としている。

【構成】通常の電話機能を有する多機能電話部1と、スケジュール情報と電話回線データとのインターフェースをとる電話部インターフェース2と、スケジュール情報を記憶するスケジュールデータ記憶部3と、スケジュール情報の入出力及び表示を行なうスケジュール入出力部4と、これら各構成要素を制御するスケジュール制御部5とで構成される。

本発明の原理ブロック図



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 通常の電話機能を有する多機能電話部(1)と、スケジュール情報と電話回線データとのインターフェースをとる電話部インターフェース(2)と、スケジュール情報を記憶するスケジュールデータ記憶部(3)と、スケジュール情報の入出力及び表示を行なうスケジュール入出力部(4)と、これら各構成要素を制御するスケジュール制御部(5)とで構成されたスケジュール機能付き電話機。

【請求項2】 前記スケジュール制御部(5)は、多機能電話部(1)を通じて相手方から発呼があり、その時不在である場合には、その発呼を自動着信させ、相手方からのスケジュール参照要求に対して、スケジュール記憶部(3)に記憶されているスケジュールデータを公衆回線を通じて相手方に送信するようにしたことを特徴とする請求項1記載のスケジュール機能付き電話機。

【請求項3】 前記スケジュール制御部(5)は、相手方電話機に発呼し、相手方が不在の場合、相手方スケジュール記憶部(3)にアクセスし、相手の行動予定を把握すると共に、相手の空き時間を利用してアポイントの予約調整を行なうようにしたことを特徴とする請求項1記載のスケジュール機能付き電話機。

【請求項4】 前記スケジュール制御部(5)は、相手にアポイントをとりたい場合には、相手方スケジュール記憶部(3)に希望日時、自己の氏名、連絡先、用件等を書き込むようにしたことを特徴とする請求項3記載のスケジュール機能付き電話機。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はスケジュール機能付き電話機に関し、更に詳しくは各個人等の行動予定等を登録できるスケジュール機能を持ったスケジュール機能付き電話機に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 近年では、各家庭に設置されている電話機にも多種多様な機能が付加されるようになってきた。例えば、留守番電話機能、転送サービス機能等である。従って、多機能電話機に行動予定等を登録できるスケジュール管理機能を待たせることは困難ではなくなっている。そこで、各電話機のスケジュール機能部にアクセスすることにより、スケジュール調整の容易化を図ることは、オフィスの効率化を促進することに向上する。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来は相手方電話機内のスケジュールを読み出したり、書き込みを行なう機能はなかった。

【0004】 本発明は、このような課題に鑑みてなされたものであって、各個人のスケジュール調整を容易化す

ることができるスケジュール機能付き電話機を提供することを目的としている。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 図1は本発明の原理ブロック図である。図において、1は通常の電話機能を有する多機能電話部で、その一端は、電話回線、ISDN回線等の公衆網と接続されている。2はスケジュール情報と電話回線データとのインターフェースをとる電話部インターフェース、3はスケジュール情報を記憶するスケジュールデータ記憶部、4はスケジュール情報の入出力及び表示を行なうスケジュール入出力部、5はこれら各構成要素を制御するスケジュール制御部である。

## 【0006】

【作用】 スケジュール制御部5は、相手からかかってきた発呼信号を識別して、スケジュールデータ記憶部3の内容を読み出して、相手方に転送する。また、相手方電話機に発呼する場合には、相手方電話機のスケジュールデータ記憶部3内にアクセスして相手のスケジュールを知ることができる。また、相手にアポイントをとりたい場合には、相手方スケジュール記憶部3に希望日時、自己の氏名、連絡先、用件等を書き込むこともできる。このように、本発明によれば各個人のスケジュール調整を容易化することができるスケジュール機能付き電話機を提供することができる。

## 【0007】

【実施例】 以下、図面を参照して本発明の実施例を詳細に説明する。先ず、図1のブロック図を参照して本発明の概要を説明する。

## 【0008】 (1) 被呼出側の場合

30 電話回線或いはISDN回線から着信要求が来た場合、多機能電話部1は加入者が不在であることを認識すると、その着信を自動着信させる。そして、呼び出し側(相手方)よりスケジュール参照の要求があった場合、そのスケジュール参照要求は、電話部インターフェース2を介してスケジュール制御部5に通知され、該スケジュール制御部5は、スケジュール参照要求が来たものと認識する。

【0009】 次に、スケジュール制御部5は、スケジュールデータ記憶部3を検索して相手方要求のスケジュールを読み出し、電話部インターフェース2、多機能電話部1を介して公衆網から相手方に送信する。スケジュール入出力部4は、スケジュール情報の入力及び表示出力を制御するものであり、液晶表示部等の表示手段と、キーボード等の入力手段を含んでいる。そして、スケジュール制御部5を介してスケジュール入出力部4からスケジュールデータ記憶部3に各種情報を書き込み、また、必要に応じて各種情報の読み出し表示を行なう。

## 【0010】 (2) 呼出側の場合

この場合、多機能電話部1から相手を呼び出すが、相手が不在であり、スケジュール機能が動作している場合

に、スケジュール問い合わせをスケジュール入出力部4から行なう。このスケジュール入出力部4の操作により、スケジュール問い合わせは、スケジュール制御部5に入り、該スケジュール制御部5はこのスケジュール問い合わせを電話部インターフェース2を介して多機能電話部1から公衆網に送出する。

【0011】図2は本発明の受信時の動作を示すフローチャートである。ブロック図としては、図1を用いる。また、スケジュール参照要求をスケジュールアクセスと呼ぶことにする。そして、通信を行なう双方の電話機も本発明によるスケジュールアクセス機能を持った電話機であるものとする。

【0012】電話回線又はISDN回線を介して、送信側は受信側を呼び出す(S1)。多機能電話部1は、受信した呼にスケジュールアクセスが設定されているかどうかチェックする(S2)。スケジュールアクセスが設定されていない場合には、回線の断処理を行なう(S3)。スケジュールアクセスが設定されていた場合には、その発呼を自動着信させる(S4)。

【0013】次に、スケジュール制御部5は、スケジュールアクセスを利用するかどうかを判定する(S5)。スケジュールアクセスを利用しない場合、回線断処理を行なう(S3)。スケジュールアクセスを利用する場合、スケジュール制御部5は、多機能電話部1を介してパスワードを送信側に要求し、アクセスの良否を判定する(S6)。パスワードを検出しなかった場合、多機能電話部1は回線断処理を行なう(S3)。

【0014】パスワードを検出した場合、スケジュール制御部5は、多機能電話部1から相手方にメニュー選択情報を送出する(S7)。送信側で選択されるメニューは以下の3種類である。

- ①スケジュール参照
- ②アポイントメント予約
- ③終了

以下、それぞれの場合の動作シーケンスについて説明する。

#### ①スケジュール参照の場合

この場合には、スケジュール制御部5は、何時のスケジュールを参照するのかの日時データを送信側に要求する(S8)。送信側からは、参照する日時データが送信されてくるので(S9)、スケジュール制御部5は受信データに不具合等がないかどうかチェックする(S10)。

【0015】受信データに不具合があった場合には、スケジュール制御部5は、再度相手方に日時データを要求する(S8)。受信データが正常であった場合には、スケジュール制御部5は受信した日時データに基づいてスケジュールデータ記憶部3をオープンし(S11)、該当部分のスケジュールデータを読み出す(S12)。スケジュール制御部5は、このようにして読み出したスケ

ジュールデータを多機能電話部1から相手方(送信側)に送信する(S13)。

【0016】送信側の電話機では、多機能電話部1で受信したスケジュールデータを、電話部インターフェース2を介してスケジュール制御部5に渡す。スケジュール制御部5は、受け取った相手方のスケジュールデータをスケジュール入出力部4の表示部(図示せず)に表示させる。

【0017】なお、ステップS13において、スケジュールデータを送信した後、スケジュール制御部5がその後も動作を継続するかどうかチェックし(S14)、継続の場合にはステップS8に戻り日時データの送信要求を行なう。継続しない場合には、ステップS7のメニュー選択に戻る。

#### ②アポイントメント予約の場合

この場合には、スケジュール制御部5は、多機能電話部1を介してアポイントメント予約を行なう日時及び用件(例えば会議)の要求を送信側に対して行なう(S15)。送信側では、日時及び用件に関するアポイントメント情報を送出する。受信側では、多機能電話部1でこの情報を受信すると、電話部インターフェース2を介してスケジュール制御部5に渡す(S16)。

【0018】スケジュール制御部5は、受信したデータに不具合等がないかどうかチェックする(S17)。受信データに不具合がある場合には、ステップS15に戻り、送信側に対して、再度日時及び用件の要求を行なう。受信したデータに不具合がない場合には、スケジュール制御部5は送信側に対して確認要求を行なう(S18)。この確認要求は、電話部インターフェース2、多機能電話部1を介して公衆網から送信側に送信される。

【0019】確認がとれない場合には、スケジュール制御部5は、ステップS15に戻り、送信側に対して、再度日時及び用件の要求を行なう。確認がとれた場合には、スケジュール制御部5は、スケジュールデータ記憶部3をオープンし(S19)、アポイントメント予約をスケジュールデータ記憶部3に書き込む。この場合、アポイントメント予約が書き込めるためには、その時点において、加入者のスケジュールに空きがあることが前提となる。

【0020】その後、更に継続するかどうかチェックし(S21)、継続する場合にはステップS15に戻り、送信側に対して、再度日時及び用件の要求を行なう。継続しない場合には、ステップS7のメニュー選択に戻る。

#### ③終了の場合

この場合には、回線切断処理(DISCONNECT)を行なう(S3)。

【0021】図3は本発明の受信時の動作を示すフローチャートである。ブロック図としては、図1を用いる。

電話回線又はISDN回線を介して、送信側多機能電話

5

部1は受信側を呼び出す(S1)。次に、受信側でスケジュールアクセス設定がされていた場合、送信側スケジュール制御部5はスケジュールアクセスを利用するかどうかチェックする(S2)。

【0022】スケジュールアクセスを利用しない場合には、回線切断処理を行なう(S4)。スケジュールアクセスを利用する場合には、受信側からのパスワード送信要求に対してパスワードを送出するかどうかチェックする(S3)。パスワードを送出できない場合には、回線切断処理を行なう(S4)。パスワードを送出できる場合には、受信側に向けてパスワードを送出する。

【0023】次に、送信側ではメニュー選択モードとなり、スケジュール入出力部4にメニューが表示される。そのメニューは、以下の3とおりである。

- ①スケジュール参照
- ②アポイントメント予約
- ③終了

#### ①スケジュール参照の場合

受信側から日時データが要求されるので、スケジュール制御部5は多機能電話部1を介して送信側に日時データを送信する(S6)。受信側では、日時データを受けとて、それに対応するスケジュールファイルを送出してくれる。送信側の多機能電話部1は、そのスケジュールファイルを受信して(S7)、スケジュール制御部5に渡す。スケジュール制御部5は、受信したスケジュールファイルを閲覧する(S8)。次に、スケジュール制御部5は、更に継続するかどうかチェックする(S9)。継続する場合には、ステップS6に戻り、日時データを送信する。継続しない場合には、ステップS5のメニュー選択モードに戻る。

#### ②アポイントメント予約の場合

アポイントメント予約の場合には、スケジュール制御部

6

5は多機能電話部1を介して日時、用件等を受信側に送信する(S10)。次に、スケジュール制御部5は、受信側の受信データに不具合等がないかどうか確認をとる(S11)。不具合があった場合には、再度日時、用件等を送信する。不具合がなかった場合には、継続するかどうかチェックする(S12)。継続しない場合には、メニュー モードに戻る。継続する場合には、更にステップS10に戻り、アポイントメント予約のための日時、用件等を送信する。

#### ③終了の場合

この場合には、スケジュール制御部5は回線切断処理を行なう。

#### 【0024】

【発明の効果】以上、詳細に説明したように、本発明によれば相手不在時の相手スケジュールの問い合わせ、アポイントメント行なうことができるため、スケジュール調整の効率化を行なうことができ、各個人のスケジュール調整を容易化することができるスケジュール機能付き電話機を提供することができる。

#### 20 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の原理ブロック図である。

【図2】本発明の受信時の動作を示すフローチャートである。

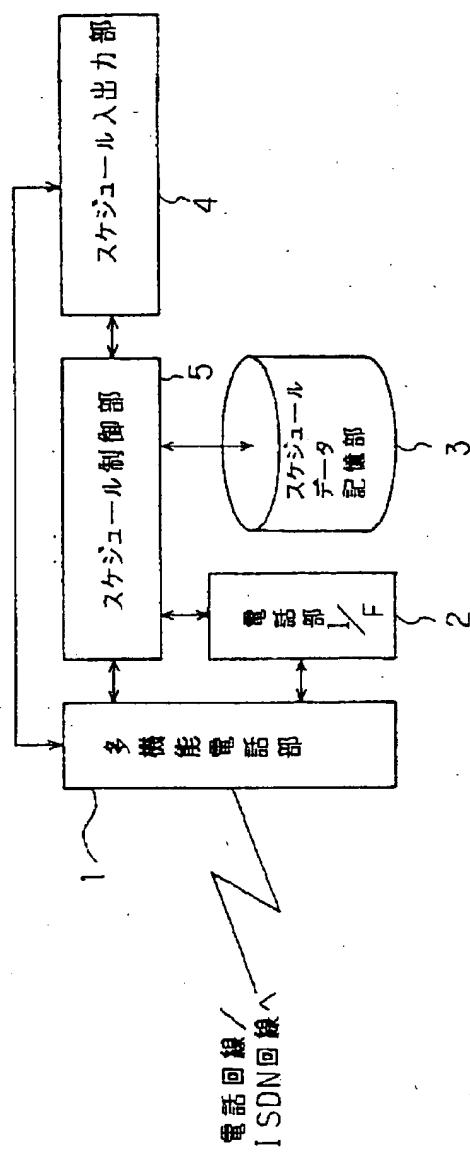
【図3】本発明の送信時の動作を示すフローチャートである。

#### 【符号の説明】

- 1 多機能電話部
- 2 電話部インターフェース
- 3 スケジュールデータ記憶部
- 4 スケジュール入出力部
- 5 スケジュール制御部

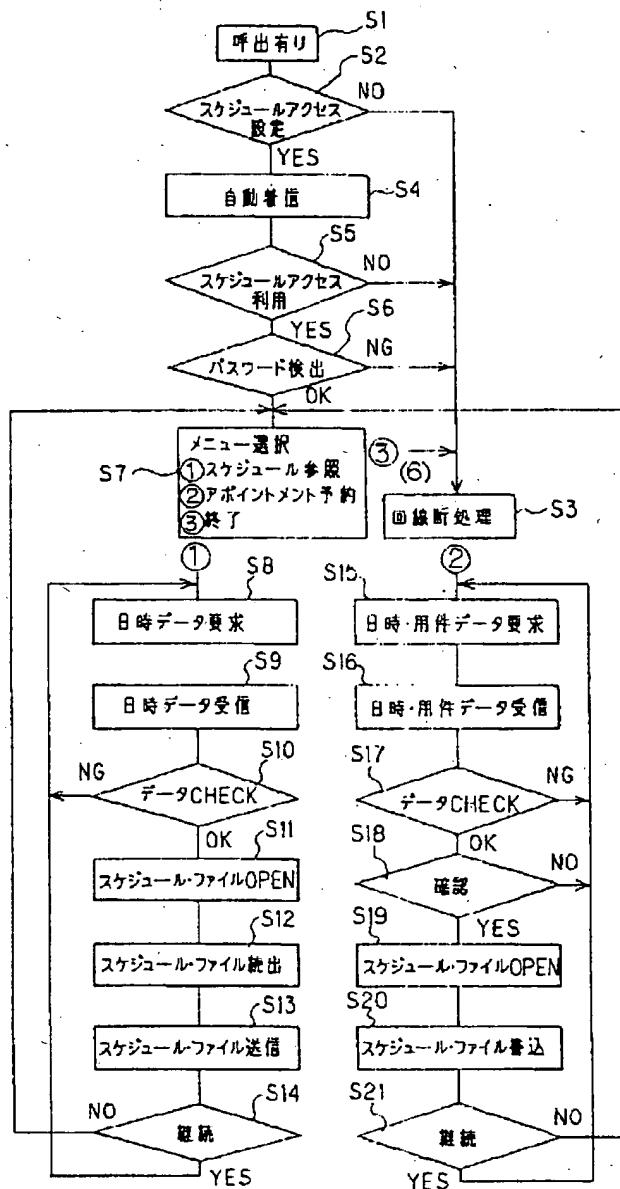
【図1】

## 本発明の原理ブロック図



【図2】

本発明の受信時の動作を示すフローチャート



【図3】

## 本発明の送信時の動作を示すフローチャート

